

挨拶に思う

(10月の職員会議資料より)

教師になって35年になる。担任を離れて久しいが、担任の頃、生徒にはいつも同じことを言ってきた。今でもそれは変わらない。次の3つである。

「あいさつをせよ。うそはつくな。そうじせよ。」

今日は、このうちのあいさつについてです。

あいさつとは、禅宗で問答をして相手の修行の程度を試すという「一挨拶」からきたとされています。挨拶の挨拶は心を開くという意味であり、挨拶は相手に迫るという意味をもつものだと知ったとき、挨拶についての認識が一変した。あいさつは簡単なようでいて実は難しいというのは、そういうことだったのか。心を開かなければできない、そしてさらに相手に迫っていく覚悟がなければならない。そうして初めて挨拶ができるのだ。あいさつができることってすばらしいことなんですね。心を開くことができず、また、相手に迫ることもままならず、それで挨拶ができないということだったら少し悲しいです。挨拶が自然にできるような人になりたいものです。

昨年、由利本荘市内の退職された校長先生の集まりに参加したとき、小学校での挨拶指導について教えていただきました。みなさんは、挨拶の4原則、「挨拶のあ・い・さ・つ」をご存じでしょうか。由利本荘地区の小学生たちは、挨拶についてこんな風に教えられているとのことでした。

・あいさつの『あ』は「明るく」です。挨拶は何より、明るくハキハキとすることが大事です。元気のいい挨拶は自分と相手に活力を生み出します。また、相手の心を開き、関係を近づけるきっかけにもなるものです。さらに、挨拶する時には必ず相手の目を見るようにしましょう。「あなたに挨拶をしていますよ」というシグナルになりますから。

・あいさつの『い』は「いつも」です。あいさつをしたりしなかったりではいけません。意識的に欠かさず行なうようにして、習慣にすることが何より大切です。

・あいさつの『さ』は「先に」です。いつも相手より先にあいさつをしようと心がけることはとても大切です。「挨拶はされるもの」という考えでは人間としての器が小さすぎです。自分から先に相手に伝えようという姿勢でいたいものです。

・あいさつの『つ』は「続ける、そして、伝える」です。あいさつは(それを)「続ける」ことが大事。もう一つ、(挨拶だけではなく言葉を)「続ける」ことです。「おはようございます」だけではなく、「昨日はありがとうございました」など、できるだけ何か言葉を添える(続ける)ようにしましょう。それだけで、挨拶を単なるルーティンワークではない、心のこもったものにすることができます。

そして、もう一つ。『つ』は心を「伝える」ことです。アイコンタクトで、自分から相手に心を伝えましょう。

以上が、挨拶の4原則なのだそうです。ところで、三つ目の『さ』についてですが、「先に」ということから「挨拶は先手必勝」という表現をされる方もおられるようです。ただ、禅問答ならいざ知らず、挨拶に勝敗を持ち込むのはいかかなものかと思います。人間の対人センサーは万能ではありません。相手に気付かないことも、挨拶に気付かないことだってあります。

そんなときは、そのような状態であることを理解してあげるのもあいさつの一部だと思います。無視されたなんて思わないこと、心は広くあれ、ということですね。

まとめです。挨拶は大切な人間として、(私は)あなたの存在を認めるということです。だから、明るく元気よく、自分から先に挨拶することが肝心です。「今日もあなたに会えてうれしい」という感謝の気持ちが添えられているならば最高です。心の中で「ありがとう」と思いながら挨拶をしましょう。そうすれば、互いの心が共鳴し合い、すてきな信頼関係が生まれるでしょう。

これからの社会は予想不可能な時代です。そんな社会を生き抜いていく子どもたちに、必要とされる力をたくさんの方がたくさんを挙げていますが、その誰もが、「コミュニケーション能力」を外していません。そして、「コミュニケーション能力の第一歩が挨拶」と、続きます。

感じのいい挨拶はした方もされた方も気持ちいいものです。そういう空間が地上にあればあるほど、住みやすい社会ですね。心豊かな社会生活の構築、あなたの挨拶からはじめましょう。

(終わり)